

パネル14

寺田 和夫 略歴



寺田和夫教授 [1928-1987] (右から2番目)

寺田和夫は1928年5月17日に横浜で生まれた。1951年東京大学理学部人類学科を卒業し、大学院に進学、1953年米子にある鳥取大学医学部助手に就任した。そして文化人類学教室の設立に伴い、1956年に東京大学教養学部助手に転じた。

1958年、第一回東京大学アンデス地帯学術調査団の一員としてペルーを訪れ、同調査団によるラス・アルダス及びガルバンサル第一回発掘に参加、1960年、ガルバンサル、ペチチェの調査を継続し、またコトシュ発掘に参加した。1962年には同大学理学博士の学位を取得し、1963年には助教授となり、コトシュの調査を継続した。

1966年、国立ワヌコ「エルミリオ・バルディサン」大学名誉教授の称号を授与され、1966年、1967年と同大学人文教育学部人類学科客員教授を務めた。1966年と1969年にはコトシュ発掘を継続する傍ら、アルゼンチン、チリ、コロンビアにも旅行した。また1967年にはそのアンデス研究への貢献により、ペルー共和国功労賞が授与された。

1970年泉靖一の死を受けてアンデス研究の継承者となり1975年に新たに東京大学核アメリカ学術調査団を組織しペルーに赴き、ラ・パンパの発掘を行った。その後1979年からはカハマルカのワカロマその他の遺跡発掘を指揮する。1986年、ペルー政府は改めて功績を称え、ペルー共和国特別功労大賞を授与した。1987年、病を得て急逝した。

ペルーで行われた調査に関する寺田博士の主な著書には次のものが挙げられる。「Blood Group Determinations of Peruvian Mummies」(古畑種基、中島八郎、石田英一郎、泉靖一、天野芳太郎共著、1958年)、「Excavations at Pechiche and Garbanzal, Tumbes Valley, Peru, 1960」(1972年発刊)、「Excavations at Huacaloma in the Cajamarca Valley, Peru」(大貫良夫共著、1982年)、「Investigaciones Arqueológicas del Valle de Cajamarca en 1982」(ペルー国立文化庁出版、1985年)、「The Formative Period in the Cajamarca Basin, Peru: Excavations at Huacaloma and Layzón, 1982」(大貫良夫共著、1985年)、「Los Ultimos Hallazgos Arqueológicos en Huacaloma」(1986年)